

＼マンガピットで読めます／

これも学習マンガだ！ 大人も学べるマンガ入門

第34回

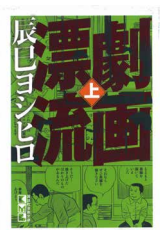
マンガピットを運営する一般社団法人マンガナイトの連載です。

ジャンル：芸術

『劇画漂流』

著者：辰巳ヨシヒロ

出版社：講談社



©辰巳ヨシヒロ/講談社



企画監修：山内康裕
(マンガナイト代表・「これも学習マンガだ！」事務局長)
構成：鈴木史恵(マンガナイト)

「海外で評価が高い日本のマンガ」と聞いて多くの人がまず思い浮かべるのは、アニメ化によって世界的な人気を博す少年マンガでしょう。劇場版『鬼滅の刃』の新作が北米で興行収入一位を記録したというニュースも記憶に新しいところ。一方、こうしたエンタテインメント作品とは別の流れとして、その芸術性が注目されることで日本国内以上に海外でよく知られ、評価されているマンガ家もいます。『劇画漂流』の作者・辰巳ヨシヒロさんもそのひとりです。

少年時代に手塚治虫さんの作品に魅了され、マンガ家を志した辰巳さんは、やがて大阪の出版社で貸本向けの単行本や短編誌を手がけるようになる中で、映画や小説からの影響を受けて「マンガ」の枠を超えた表現を模索し始め、ある日、自作の扉絵に「劇画」という言葉を添えます。辰巳さんは、この言葉の生みの親なのです。『劇画漂流』ではそんな「劇画」誕生の経緯や、貸本というオルタナティブな出版文化の内幕、そして若き日の辰巳さんが直面した葛藤や喜びが

語られていきます。

貸本文化はやがて衰退しますが、辰巳さんの作品は数十年を経て海外で再評価されます。二〇〇五年以降、翻訳出版が相次ぎ、著名なマンガ賞も多数受賞。二〇一二年には短編五作を原作とするアニメ映画『TATSUMI』がシンガポールで製作・公開されました。

「劇画」は次第に本来の意図から離れて絵柄やストーリーの特徴として理解されるようになり、一九七〇年頃には一大ブームとなりますが、この「劇画」という言葉自体も、今ではあまり聞かれなくなりしました。しかし、「トキワ荘」の作家たちと同時代に、異なる場所で新しい表現を追求していた辰巳さんが、海外の「日本マンガ史」に名を刻んでいることは、日本マンガの多様性を示しているようでもあります。誰もが知るヒット作だけがマンガの歴史を築いてきたわけではない――『劇画漂流』は、そんなことを教えてくれる作品です。



マンガピット!

Manga Edutainment

Supported by 日本 THE NIPPON
FOUNDATION

「これも学習マンガだ!〜世界発見プロジェクト〜」に選出された作品を中心に学びにつながるマンガや学習マンガを楽しめる読書空間です。

「トキワ荘の時代のマンガ100選」とあわせ、約350作品をそろえました。かつてトキワ荘のあったエリアで、ゆっくりとマンガを楽しんでみませんか?



これも学習マンガだ!
Manga Edutainment

Supported by 日本 THE NIPPON
FOUNDATION

